

折に触れ 四字熟語

NO. 196 〔乾坤一擲〕 けんこん いってき

< 意味 > 運を天にまかせて、のるかそるかの大勝負をすること。天下をかけて一度さいころを投げる意から。「一擲乾坤」ともいう。

< 出典 > 韓愈「鴻溝を過ぐ」（詩）「真に一擲を成して乾坤を賭す」

表 言： 乾坤一擲の大勝負

用 例： 信玄はこれを迎えて、乾坤一擲の大合戦を敢行しようと思っていた。<井上靖・風林火山>

語 釈： 「乾」は天、「坤」は地の意。「一擲」はひとたび投げること。

一 言： 折しも自民党の総裁選に4人の議員が立候補されています。緻密な情勢分析の上であって、運を天にまかせるようなことはないでしょうが、のるかそるかの大勝負であることに違いはないでしょう。

参照文献： 岩波書店「四字熟語辞典」